

# WEEK7 キャリアパスを考える 1

## ～大学教員としてのあり方～

### ワークシート目次

1. SESSION 1 変わりゆく大学
2. SESSION 2 大学教員のあり方
3. SESSION 3 目指す大学教員像を考える
4. SESSION D 理想の大学教員像
5. 各セッションの多肢選択課題一覧
6. 参考文献

### WEEK7 の目的と目標

**目的** 大学教員として今求められていることを理解し、そのあり方について考えることができる

### 到達目標

1. 日本の高等教育の概要を説明できる
2. 大学教員としての責務を4つ挙げ説明できる
3. 現在の活動の俯瞰と今後の展望を行うツールとしてのポートフォリオの特徴について説明できる





## 1. SESSION 1 変わりゆく大学

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所ではテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

### W7.S1.Question1

高等教育機関にはどのようなものがあるでしょうか。その種類について思いつくものをあげてみましょう。

### W7.S1.Question2

日本の大学の数は？

1. 約 300
2. 約 800
3. 約 1500

### W7.S1.Question3

「全入時代」とはどのようなことでしょうか。

1. 18 歳人口と大学入学定員が同じ
2. 大学進学希望者総数と大学入学定員総数が同じ

### W7.S1.Question4

大学への進学率はどれくらいでしょうか。

1. 約 25%
2. 約 50%
3. 約 75%



## 2. SESSION 2 大学教員のあり方

下記はこのセッションで使う Question です。動画において適宜使用箇所ではテロップがながれますので、一緒に考えてみましょう。

### W7.S2.Question1

大学教員の仕事をあげてみましょう。指導教員などあなたの周りの大学の先生はどのような仕事を普段していらっしゃいますか。挙げてみましょう。



### **3. SESSION 3 目指す大学院像を考える**

下記はこのセッションでは特に Question はありません。メモスペースとしてご活用下さい。



## 4. SESSION D 理想の大学教員像

今週学習した大学教員の職責を踏まえて、あなたが理想とする教育と研究のバランスを考えてみましょう。両者の関係をどのように考えますか？

### W7.D

本ページ下部のスペースに「教育」と「研究」の2つの円を書いて下さい。その際、2つの大きさのバランスや重なりによって、あなたが理想とする大学教員の教育と研究のありかたを表現してみましょう。

## 5. セッション課題一覧

ここでは、各セッションで出題された課題を再掲しています。復習等にお役立てください。

### W7-1 日本の高等教育の概要についての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 日本の大学の総数は約 800 であり、その中の私立の割合は、約 50%である。
- 2) 日本の大学進学率は、約 70%である。
- 3) 少子化に伴い大学進学希望者総数が減っており、ついに 18 歳人口と大学入学定員がほぼ等しい「全入時代」に突入したと言われている。
- 4) 大学をめぐる状況は大きく変化しており大学は学生の多様化や学習環境の変化などに対応してゆく必要に迫られている。

### W7-2 大学教員の責務についての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 大学教員の仕事は大きく分けて、「教育」、「研究」、「社会貢献」、「管理運営」の 4 つが挙げられる。
- 2) 専門領域やキャリアステージに関わらず、大学という機関の性質を考慮すると、大学教員は何よりもまず「教育」の仕事により多くの比重を置いて取りかからなければならない。
- 3) 大学教員の教育者としての質の保証が重視されるようになるのに伴い、いわゆるファカルティ・ディベロップメントの義務化などが行われた。
- 4) 大学教員の採用場面では、日本のどの大学でも、依然として「研究」の能力だけが採用基準としてみられており、今後この傾向は強まると予想されている。

### W7-3 ポートフォリオについての説明として、適切なものを全て選んでください。

- 1) 学生の作成するポートフォリオは一般的にラーニング・ポートフォリオと呼ばれる。
- 2) 大学教員としてのキャリア・パスを考える際に、目指すものを明確化したり、長期目標を設定しても、その通りに進まないことがほとんどであり、時間の無駄である。
- 3) ポートフォリオを作成することは、現在までの活動の整理や、理想の明確化、目標の設定、および改善への気づきに役立つ。
- 4) ポートフォリオは、自分の活動全体を多角的にとらえ直し、俯瞰することにつながる。

## 6. 参考文献一覧

ケン・ベイン 高橋靖直訳 (2008) ベスト・プロフェッサー 玉川大学出版部

**優秀な教育者としての大学教員の事例を集めています。**

ピーター・セルディン, エリザベス・ミラー著 大学評価・学位授与機構監訳・栗田佳代子  
訳 (2009) 『アカデミック・ポートフォリオ』 玉川大学出版部 (Peter Seldin and  
J. Elizabeth Miller (2008) *The Academic Portfolio: A Practical Guide to  
Documenting Teaching, Research, and Service*, Jossey-Bass Higher and Adult  
Education)

**アカデミック・ポートフォリオ開発者の書籍の訳書です。**

ピーター・セルディン著 大学評価・学位授与機構監訳・栗田佳代子訳(2007) 『大学教育  
を変える教育業績記録』 玉川大学出版部 (Peter Seldin (2004) *The Teaching  
Portfolio: A practical guide to improved performance and promotion/tenure  
decisions 3<sup>rd</sup> ed.* Anker Publishing Company, Inc.)

**自己省察を重視するタイプのティーチング・ポートフォリオ開発者の書籍の訳書  
です。**

杉原厚吉 (2012) 『大学教授と言う仕事』 水曜社

**日本の大学教員がどのような仕事をしているのか、当人が語っています。**

Debowski, S. (2012). *The New Academic: A strategic handbook*. Maidenhead,  
Berkshire: Open University Press.

**大学教員の職責およびあり方について詳細に解説されています。**